



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）海洋環境保護分科委員会（SC 2）、同船底防汚システム作業委員会（WG 5）、排ガス洗浄システム作業委員会（WG 10）等 京都会議

開催場所：京都リサーチパーク会議室（京都市下京区中堂寺南町）

会議期間：2019年5月29日～31日

参加者：9カ国35名

海技研からの出席者：高橋千織：環境・動力系動力システム研究グループ長

益田晶子：環境・動力系環境分析研究グループ長

安藤裕友：環境・動力系環境分析研究グループ上席研究員

小島隆志：環境・動力系環境影響評価研究グループ上席研究員

概要：

ISO/TC 8/SC 2 は、船上ゴミ（WG 4）、船底防汚システム（WG 5）、排ガス洗浄システム（WG 10）、燃費データ（WG 11）及び液化水素技術（WG 12）と同時に開催された。生物の船体付着を防ぐために船舶に使用される塗料の性能評価試験方法の規格案を検討し、概ね合意に達した。また、船上での連続監視に使用される pH メータの規格案を検討し、概ね合意に達した。作業原案を完成させた後、CD（委員会原案）投票を実施することとなった。

主な貢献

高橋は、排ガス洗浄システム作業委員会（WG 10）のコンビーナを務め、また、ISO 23668「排ガス洗浄システムの船上での pH 連続監視手法」のプロジェクトリーダー（PL）として、規格案の審議に貢献した。

益田及び安藤は、WG 10 に参画し、ISO 23668 の審議に貢献した。

小島は、船底防汚システム作業委員会（WG 5）に参画し、PL として、ISO 21716「防汚塗料のスクリーニングに用いる付着定量法」シリーズの審議に貢献した。



ISO/TC 8/SC 2 京都会議出席者



主な審議結果

海技研からの出席者が参加した会議の主な審議結果は以下の通りである。他の会議並びに審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 船底防汚システム作業委員会 (WG 5)

小島が PL を務める ISO 21716 「船底防汚塗料のスクリーニングのための生物試験方法」シリーズは、海生生物の船体付着を防ぐために船舶に使用される船底防汚塗料の性能評価試験方法を規定するものである。日本提案（三部構成）の規格案について審議が進められ概ね合意が得られた。審議の過程で、標題と適用範囲を変更することになったことから、CD（委員会原案）投票を実施することとなった。また中間会合を、2019年11月にハンブルグで開催することとなった。

2 排ガス洗浄システム作業委員会 (WG 10)

排ガス洗浄システム（EGCS）を搭載して高硫黄燃料油を使用する場合に、洗浄水の水素イオン濃度（pH）の連続モニタリングが必要である。しかし現状では、船上での連続モニタリングに使用される pH メータに係る適当な規格がないため、高橋を PL として日本が ISO 23668 「排ガス洗浄システムの船上での pH 連続監視手法」を提案した。今次会合では、規格案の審議を進め、pH メータは EGCS 以外の船上システムにも使用できることから、規格の標題と適用範囲を変更することになった。その上で作業原案を完成させた後は、CD 投票を実施することとなった。

3 次回会合

次回 SC 2 総会は 2020 年 5 月～7 月に欧州で開催する方向で今後調整される。